

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2022年8月22日

議席番号

23番

東村山市議会議長 あて

質問者

山田 たか子

記

1. 市の積極的な姿勢が市民の不安軽減と安心の暮らしに

～みどりの大切な役割

昨今の台風の強化・豪雨の頻発は、人間活動の影響が地球を温暖化させてきたことを疑う余地はないと、示されている。この数年だけでも全国各地で、かつてない豪雨による水害が起き、市内でも河川や急傾斜地沿いの市民からは「他人ごとではない」「大雨のたびに不安」との声が届く。温暖化にも防災にも欠かせないみどりの役割を再認識し、市内のどこに住んでいても安心して暮らせるまちづくりを求め、以下伺う。

- 1) 緑の基本計画2021では、緑地保護区域の面積、保存樹木・特別保存樹木の本数、緑被率、公園・緑地面積ともに10年後も現状を「維持」するとの目標が掲げられている。しかし、緑地所有者に対して、他市と比べると手厚い税金の優遇をされてきた経緯は理解しているが、「現状維持」を目標としていた前計画下においても、緑地が減り続けてきた経過がある。本気で緑地保全を進めるのであれば、これまで以上の対応が必要と考える。防災の観点からも適宜計画の見直しが必要と考えるが、いかがか。
- 2) 水害対策に関する要望や、水害に付随する市民の声が届いていれば伺う。
- 3) 市が水害対策として実施している取組と、課題について伺う。
- 4) 100年に一度、50年に一度といわれる豪雨が続き、水害が各地で頻発している。被災地によっては2度も3度も被害を受け、様々なメディアからは希望を失った住民の悲しみや諦めといった落胆、疲弊する状況が伝えられる。それらを繰り返さないためにも、被災地から学ぶことが重要だ。被災を最小限に抑える視点から、

被災地や、西日本豪雨災害時の職員派遣により学んだことがあれば伺う。

- 5) 市の対応が前向きであるほど、市民の市に対する信頼が高まり、市民の意識向上で防災減災につながり、市民生活を守ることとなる。現在の水害に対する市民の不安な声をどのように受け止め課題に取り組むのか、市民が安心・納得の得られる丁寧な回答、対応をぜひお願いしたいが、いかがか。市長に伺う。

2. 都立高校入試への英語スピーキングテスト導入は見直しを

2019年には、大学入学共通テストに英語の民間試験が導入されそうになった問題があった。当事者である高校生も含め反対の声が高まり、見送りとなったが、今、都立高校入試への英語スピーキングテストの導入がすすめられている。本当にいま必要なテストなのか、保護者や学校現場から、様々な疑問が噴出している。私たちは、子どもへの負担が増大するE S A T - Jの都立高入試への導入を見直すべきと考える。本テストに対する当市の考え方と、教育現場の実状を伺う。

- 1) 都立高校入試のスピーキングテスト導入に至った経過と、試験日や結果返却等の実施に関わる具体的なスケジュールを伺う。
- 2) 当市が考えるスピーキングテストのメリット・デメリットを伺う。
- 3) 昨年度行われた、スピーキングテストのプレテストの状況と、課題を伺う。
- 4) 小学校の外国語活動、中学校の英語授業の現状について
 - ①都立高入試へ新たなテスト(E S A T - J)の導入であるが、授業内容を大きく変えざるを得ないと推測される。授業時間の変更や学習進度への配慮はされているのか。また小学校中学校において、それぞれの宿題(学校の授業時間以外の家庭学習課題)の有無や状況を伺う。
 - ②教育現場の研修会では、早期の英語教育の導入により英語に対する好き嫌いの差が広がり、後の学習意欲や成績にも影響しているとの声を受ける。そうした個々の学力の差について、市としてどうとらえているのか。また、差があるとすれば、その対応はどのようにされているのか、現状を伺う。
- 5) 生徒への影響
 - ①高校入試の目的を伺う。
 - ②自治体によっては、G T E C (- C o r e) を導入している学校もあると聞く。市としてG T E Cに対する認識を伺う。

- ③スピーキングテストの当日に体調不良で欠席した生徒への対応を伺う。
- ④テスト結果の点数によっては、進路変更も考えられる。そうした生徒の心理的負担をどう捉えるのか。

6) 保護者への影響

- ①保護者はスピーキングテストへの理解をしているのか。また、説明会等は開催されたのか伺う。
- ②保護者からテストへの疑問・質問等、様々な声が届いてれば伺う。

7) 学校・教員への影響

- ①学校や教員から、スピーキングテストについて、どのような声が届いているのか伺う。
- ②テスト結果の点数によっては、進路変更も考えられる。そうした教員への負担は想定されているのか伺う。

- 8) 子ども達にとって学校教育を人材育成の場ではなく、人格形成の場にしていくことが必要である。今回の早急なスピーキングテストの導入は、本来は授業の先に入学試験というテストがあるのに対し、入学試験のテストのための授業となることや、公教育が教育産業にのみこまれていく危険性あり、見過ごせない。スピーキングテスト導入への総括として、教育長の見解を伺う。